



2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月3日

上場会社名 株式会社ユビテック 上場取引所 東
コード番号 6662 URL <https://www.ubiteq.co.jp/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)大内 雅雄
問合せ先責任者 (役職名)グループ管理部長 (氏名)手塚 佑介 (TEL)03(5447)6731
四半期報告書提出予定日 2023年2月3日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	347	△31.9	△143	—	△143	—	△128	—
2022年6月期第2四半期	509	△30.5	△109	—	△108	—	△92	—

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 △128 百万円 (—%) 2022年6月期第2四半期 △92 百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	△8.67	—
2022年6月期第2四半期	△6.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	2,671	2,512	92.9
2022年6月期	2,929	2,656	89.1

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 2,481 百万円 2022年6月期 2,609 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0 00	—	0 00	0 00
2023年6月期	—	0 00	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2023年6月期の期末配当予想については、現時点では未定であります。

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

2023年6月期の業績予想につきましては、現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定といたします。今後、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。※詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年6月期2Q	14,791,600株	2022年6月期	14,791,600株
2023年6月期2Q	一株	2022年6月期	一株
2023年6月期2Q	14,791,600株	2022年6月期2Q	14,791,600株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進み、企業収益や設備投資に持ち直しの動きが見られたものの、ウクライナ情勢の長期化による原油・原材料価格の高騰に加え、急激な円安進行も相まって物価上昇が加速しており、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは2022年6月期を初年度とする4カ年の中期経営計画「ユビテック4.0」を策定いたしました。本中期経営計画ではIoTテクノロジー×AI・データ活用+外部サービス連携でお客さまの企業経営と生活を支え、新たな社会常識を創造するイノベーションカンパニーへの成長を目指すことを経営ビジョンとして掲げており、顧客ニーズと社会変化に対応してサービスの価値創造を続ける、持続的かつ可変的なビジネスモデルへと変革すべく、各種施策に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間における主な活動といたしましては、安全見守りサービス「Work Mate」のブラッシュアップや顧客サポート体制の強化及び2022年9月から新たにサービスを開始した安全運転支援サービス「D-Drive」の機能拡充や営業展開を行うとともに、WEBマーケティング及びウェビナーなどによる情報発信や展示会への出展等を通じて、新規顧客の獲得に向けたプロモーション活動に積極的に取り組んでおり、「Work Mate」につきましては、新たに住友化学株式会社、東洋紡株式会社、キリンビール株式会社、昭栄化学工業株式会社に採用されるなど、大手製造企業・建設企業を中心に導入件数は増加しており業績に寄与しております。なお、「Work Mate」につきましては2022年11月に一般社団法人日本クラウド産業協会（略称：ASPIC）が発表した「第16回 ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2022」のAI部門において、「働き方改革賞」を受賞しました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は347百万円（前年同四半期比31.9%減少）、営業損失は143百万円（前年同四半期は営業損失109百万円）、経常損失は143百万円（前年同四半期は経常損失108百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は128百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失92百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

IoT事業

IoT事業は、車載機関連につきましては概ね横ばいでの推移となりましたが、「Work Mate」につきましては積極的なプロモーション活動効果などにより導入実績は順調に増加していることから、売上高は増収となりました。一方で、利益面につきましては、広告宣伝費及び有形・無形固定資産に係る減価償却費の増加等により、損失幅は前年同四半期より拡大しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は204百万円（前年同四半期比4.0%増加）、セグメント損失は30百万円（前年同四半期はセグメント損失21百万円）となりました。

製造受託事業

製造受託事業は、従来の主力製品である紙幣鑑別センサモジュール及び通信アミューズメント機器が市場環境の変化による需要減少の影響を受け、売上高は大幅な減収となり、利益面においてもセグメント損失を計上することとなりました。現在、製造受託事業においては、既存製品の落ち込みをカバーすべく新規の量産案件立ち上げに向けた準備を進めており、今年度中の販売開始を目指しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は12百万円（前年同四半期比93.2%減少）、セグメント損失3百万円（前年同四半期はセグメント利益21百万円）となりました。

開発受託事業

開発受託事業は、子会社のユビテックソリューションズにおける既存開発案件縮小の影響により、売上高は微減となりましたが、グループ全体で進めている業務効率化及び人員の適正化により、損失幅は前年同四半期より縮小しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は130百万円（前年同四半期比1.8%減少）、セグメント損失は10百万円（前年同四半期はセグメント損失13万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は2,671百万円となり、前連結会計年度末から257百万円減少しております。主な内容としましては、受取手形、売掛金及び契約資産が265百万円減少しております。

(負債の状況)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は158百万円となり、前連結会計年度末から114百万円減少しております。主な内容としましては、支払手形及び買掛金が85百万円、退職給付に係る負債が9百万円減少しております。

(純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は2,512百万円となり、前連結会計年度末から143百万円減少しております。主な内容としましては、親会社株主に帰属する四半期純損失128百万円の計上、新株予約権の減少14百万円によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、以下の各キャッシュ・フロー状況とそれらの増減要因により、前連結会計年度末に比べて99百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末は1,618百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は17百万円(前年同四半期は114百万円の支出)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失127百万円、減価償却費37百万円、売上債権の減少265百万円、棚卸資産の増加59百万円、仕入債務の減少87百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は81百万円(前年同四半期は44百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出55百万円、無形固定資産の取得による支出26百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は0百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは中期経営計画として、2025年6月期に連結売上高30億円、連結営業利益3億円の達成を目標に掲げており、これを実現するため、「Work Mate」及び2022年9月から新たにサービスを開始した「D-Drive」のさらなる機能拡充及び販路拡大に注力するとともに、オリックスグループとも連携しながら新たなビジネス開発を進めてはいるものの、2023年6月期の業績予想につきましては、現時点においては信頼性の高い数値を合理的に算出することが困難な状況であることから未定とし、記載しておりません。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,218,039	2,118,837
受取手形、売掛金及び契約資産	368,012	102,148
電子記録債権	—	220
商品	—	18,149
製品	13,202	43,048
仕掛品	140	2,780
原材料及び貯蔵品	67,144	76,187
その他	27,525	27,496
流動資産合計	2,694,063	2,388,867
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	67,668	67,668
減価償却累計額	△31,222	△33,324
建物及び構築物(純額)	36,445	34,343
工具、器具及び備品	293,223	346,247
減価償却累計額	△216,226	△231,337
工具、器具及び備品(純額)	76,996	114,909
有形固定資産合計	113,442	149,253
無形固定資産		
その他	89,206	101,095
無形固定資産合計	89,206	101,095
投資その他の資産		
その他	32,601	32,448
投資その他の資産合計	32,601	32,448
固定資産合計	235,251	282,798
資産合計	2,929,314	2,671,665

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	103,642	17,996
電子記録債務	55,340	52,556
未払金	33,017	25,879
未払法人税等	6,567	5,571
賞与引当金	1,199	1,140
その他	57,048	49,532
流動負債合計	256,815	152,678
固定負債		
退職給付に係る負債	15,816	5,825
繰延税金負債	373	373
固定負債合計	16,190	6,198
負債合計	273,005	158,876
純資産の部		
株主資本		
資本金	941,473	941,473
資本剰余金	655,375	655,375
利益剰余金	1,012,549	884,241
株主資本合計	2,609,398	2,481,091
新株予約権	14,876	—
非支配株主持分	32,033	31,697
純資産合計	2,656,308	2,512,788
負債純資産合計	2,929,314	2,671,665

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	509,829	347,039
売上原価	412,597	292,187
売上総利益	97,232	54,852
販売費及び一般管理費	206,737	198,804
営業損失(△)	△109,505	△143,952
営業外収益		
受取利息	30	9
固定資産売却益	237	158
生命保険配当金	392	385
未払配当金除斥益	164	232
還付加算金	157	—
その他	38	96
営業外収益合計	1,020	883
営業外費用		
為替差損	9	42
固定資産除却損	9	0
その他	1	—
営業外費用合計	20	42
経常損失(△)	△108,504	△143,110
特別利益		
棚卸資産売却益	9,462	—
新株予約権戻入益	—	14,876
在庫引取損失引当金戻入額	5,353	—
受取保険金	5,000	825
特別利益合計	19,815	15,702
税金等調整前四半期純損失(△)	△88,689	△127,408
法人税、住民税及び事業税	1,235	1,235
法人税等調整額	2,905	—
法人税等合計	4,140	1,235
四半期純損失(△)	△92,830	△128,643
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△246	△336
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△92,583	△128,307

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△92,830	△128,643
四半期包括利益	△92,830	△128,643
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△92,583	△128,307
非支配株主に係る四半期包括利益	△246	△336

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△88,689	△127,408
減価償却費	26,454	37,584
受取保険金	△5,000	△825
在庫引取損失引当金戻入額	△5,353	—
新株予約権戻入益	—	△14,876
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△266	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△107	△58
製品自主回収関連損失引当金の増減額(△は減少)	△2,281	—
在庫引取損失引当金の増減額(△は減少)	△25,066	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1,004	△9,991
受取利息及び受取配当金	△30	△9
為替差損益(△は益)	0	0
固定資産除却損	9	0
固定資産売却損益(△は益)	△237	△158
売上債権の増減額(△は増加)	△29,175	265,644
棚卸資産の増減額(△は増加)	517	△59,678
仕入債務の増減額(△は減少)	45,103	△87,233
未払金の増減額(△は減少)	△86,835	△11,509
その他	47,164	△7,461
小計	△124,799	△15,983
利息及び配当金の受取額	4	4
保険金の受取額	5,000	825
法人税等の支払額	△1,083	△2,470
法人税等の還付額	6,412	8
営業活動によるキャッシュ・フロー	△114,466	△17,615
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△29,621	△55,219
有形固定資産の売却による収入	569	3
無形固定資産の取得による支出	△14,859	△26,356
敷金及び保証金の差入による支出	△146	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44,057	△81,572
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△27	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△27	△13
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△158,551	△99,201
現金及び現金同等物の期首残高	2,032,444	1,718,039
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,873,892	1,618,837

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	196,355	180,701	132,772	509,829	—	509,829
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	196,355	180,701	132,772	509,829	—	509,829
セグメント利益又は損失 (△)	△21,163	21,958	△13,177	△12,382	△97,122	△109,505

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△97,122千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△97,122千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	204,265	12,362	130,411	347,039	—	347,039
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	204,265	12,362	130,411	347,039	—	347,039
セグメント損失(△)	△30,131	△3,611	△10,244	△43,987	△99,965	△143,952

(注) 1. セグメント損失の調整額△99,965千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△99,965千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。